

教 科	工 業	科 目	実 習 A	単位数	4 単位（7 単位の内）
学 科	繊維デザイン科	学 年	3 学年	コース	繊維コース
学習目標	繊維製造や染色など繊維に関する専門分野と工業全般にわたる基礎的分野としてのコンピュータに関する基礎的な技術を実際の作業を通して総合的に習得し、技術革新に主体的に対応できる能力と態度を培う。				
学習内容	学習項目			評価規準【評価の観点】	
	1 オリエンテーション			・実習に対する心構え、安全、服装、準備物及びレポートの作成の留意点を理解している。【A・B・D】	
	2 染色実習 (1) 分散染料によるアセテートの染色 (2) 酸性染料によるナイロンの染色 (3) 分散染料によるナイロンの染色 (4) 分散染料によるポリエステルの普通染色 (5) 分散染料によるポリエステルのキャリヤー染色			・化学繊維の特性を理解し、2年次の「天然繊維の染色」よりもやや複雑な「化学繊維の染色」について、その理論と方法を習得ができています。 【A・B・C・D】	
	3 織物製造実習 (1) エアジェット織機の構造とタオルデザインの理解 (2) 飾り織及びタオルデザインの制作とコンピュータソフトの理解 (3) 織物画像処理ソフトの操作 (4) 緯糸交換方法の理解 (5) エアジェット織機による製織機 (6) 経糸切れ処理 (7) ミシンによるタオルの縫製 (8) レポートの作成及び提出			・タオルや各種織物ができるまでの製造工程を理解した上でデザインを考え、織物専用ソフトを使ってデータ作成を行う方法を習得する。また、エアジェット織機の構造と操作、経糸切れ処理、緯糸の交換について技術習得ができる。 ・ミシンによる縫製技術を身に付けている。【A・B・C・D】	
	4 捺染実習 (1) フォトショップによる製版作業 (2) 反応染料による綿布の染色 (3) スクリーン捺染枠の制作と白色抜染 (4) 顔料による捺染 (5) 反応染料による捺染 (6) レポートの作成及び提出			・捺染の原理を理解した上でフォトショップを使いデザインを考え、捺染枠を作成し様々な方法で捺染、抜染をし、染色について深い知識を身に付けるとともに、捺染と浸染をうまく使い分け自分のデザインしたものに仕上げる技術を身に付けている。 【A・B・C・D】	
評価の観点	【A】 関 心・意 欲・態 度 【B】 思 考・判 断・表 現 【C】 技 能 【D】 知 識・理 解				
評価方法	実習課題の完成度、レポート内容、出席状況に態度、服装等も加味した総合評価				
教科書等	自作プリント				
備 考	1 班 10 名程度のローテーションで学習する。 実習 A は繊維デザイン科コース科目であり、繊維コース対象に実施する。				

※評価規準は、学習の到達目標でもあります。

教 科	工 業	科 目	実 習 B	単位数	3 単位（7 単位の内）
学 科	繊維デザイン科	学 年	3 学年	コース	繊維コース
学習目標	繊維製造や染色など繊維に関する専門分野と工業全般にわたるプレゼンテーション能力を身に付けるためのコンピュータに関する基礎的な技術を実際の作業を通して総合的に習得し、技術革新に主体的に対応できる能力と態度を培う。				
学習内容	学習項目			評価規準【評価の観点】	
	1 オリエンテーション			・実習に対する心構え、安全、服装、準備物及びレポートの作成の留意点を理解している。【A・B・D】	
	2 織物製造実習 (1) 工業用ミシンの理解 (2) タオルのヘムの理解とヘム縫い (3) ミシンの管理の方法 (4) タオルの耳の理解と耳縫い (5) 作品をつくる (6) レポートの作成及び提出			・家庭用ミシンとの違いを理解している。 ・タオルのヘムの働きや構造を理解している。 ・ミシンを使ってヘム縫いができる。 ・ミシンの構造を理解している。 ・ミシンを使って耳縫いができる。 ・ミシンの基本操作ができる。 ・ミシンを使って作品ができる。 【A・B・C・D】	
	3 染色および製織実習 (1) かせ作り (2) かせ染め (3) 巻き返し (4) 製織 (5) 異種染料による異種繊維の同時染色 (6) レポートの作成及び提出			・検尺器を使ってかせを作ることができる。 ・染色計算およびかせ染めができる。 ・ワインダーを使って巻き返しができる。 ・染色した糸をよこ糸として普通織機を使って平織りができる。 ・繊維と染料の相性の良し悪しを理解している。【A・B・C・D】	
	4 プレゼン実習 (1) 課題研究のテーマ設定 (2) 研究テーマ先行調査 (3) 論理的プレゼンテーション (4) スライドデザイン (5) パワーポイントによる伝え方 (6) レポートの作成及び提出			・日常の不便や授業中の疑問を洗い出すことができる。 ・既製品や過去のテーマを調べることができる。 ・基本ロジックの組み方ができる。 ・フローチャートによる構造化ができる。 ・相手に伝わる表現ができる。 【A・B・C・D】	
評価の観点	【A】関心・意欲・態度 【B】思考・判断・表現 【C】技能 【D】知識・理解				
評価方法	実習課題の完成度、レポート内容、出席状況に態度、服装等も加味した総合評価				
教科書等	自作プリント				
備 考	1 班 10 名程度のローテーションで学習する。 実習Bは繊維デザイン科コース科目であり、繊維コース対象に実施する。				

※評価規準は、学習の到達目標でもあります。